

**1年必修「言語文化」学習指導案**

日時 11月19日(土) 9:50-10:40  
対象 1年菊組(計42名)  
授業者 植田敦子  
会場 附属高等学校 3階演習室

**1. 科目名、単元名、教材名、教科書名**

科目名：言語文化(2単位)  
単元名：読み比べ～伊勢物語「筒井筒」、大和物語「沖つ白波」、『古今和歌集』(雑歌下994)  
教科書名：『言語文化』(第一学習社)  
副教材：『九訂版 読解を大切に作る体系古典文法』(数研出版)  
『新国語総合ガイド 五訂版』(京都書房)  
配布資料出典  
：『竹取物語 伊勢物語 大和物語 平中物語』片桐洋一他  
(『新編日本古典文学全集』小学館 1994年)  
：『古今和歌集』小沢正夫他 (『新編日本古典文学全集』小学館 1994年10月)

**2. 単元の目標と育成する資質・能力**

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解できる。((2)ウ)	「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めることができる。 (B(1)エ)	積極的に読み比べ、『伊勢物語』『大和物語』それぞれの特色や魅力に気づくことができる。

**【育成する資質・能力】**

異なる時代に成立した随筆や小説、物語などを読み比べ、それらを比較して論じたり論評したりする。

**3. 具体的な評価規準**

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習の取り組む態度
古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。((2)ウ)	「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 (B(1)エ)	『伊勢物語』の同話と積極的に読み比べ、『大和物語』の表現の特色を理解している。

**4. 指導観**

(1) 単元観

本単元は、「学習指導要領」に示された、「読むこと」に関する言語活動のうち、「異なる時代に成立した随筆や小説、物語などを読み比べ、それらを比較して論じたり批評したりする活動」に相当する課題として設定した。具体的には、『伊勢物語』第二十三段「筒井筒」を学習した後、『大和物語』第四百九段「沖つ白波」を比較して読み、内容や作風の違いを考えさせる。『大和物語』は『伊勢物語』より少し後に成立したと考えられ、『伊勢物語』の影響を受けているとの見方が一般的である。「筒井筒」

とほぼ同じ場面の描写に関して、両作品にどのような違いがあるのか、作風の違いはどのようなものか、生徒自身はどちらの作品や作風を好むのか等考えさせたい。また、時間が許せば、『古今和歌集』の「風吹けば」の歌と左注についても紹介し、同じ歌をめぐるいくつかの物語があることを理解させたい。

## (2) 生徒観

学習に前向きな生徒たちで、真面目に取り組む。ペアワークやグループワークなどの話し合いは活発に行う。文法事項や解釈など、こちらの問いかけに対しての返答は、反応のいいクラスに比してそこまです積極的ではないものの、ある程度の返答はあるクラスである。内容に関する問いに関しては、積極的に手をあげる生徒もいる。

## 5. 年間指導計画における本単元との関係

言語文化は、2単位である。1単位時間は45分。現代文（小説、韻文）、古文、漢文の3つのジャンルを1年間にわたって学習する。本単元は、読み比べの活動として、2学期後半に設定した。年間指導計画については、別表に示している。

## 6. 単元の指導計画と評価計画（全4時間）

時	目標	主な学習活動	主に評価する内容・評価方法
第1時	「筒井筒」を3段落に分け、第1段落を読み、和歌を中心に内容を理解する。	1 第1段落を音読後、内容について近くの人と話し合い、発表する。 2 重要語句や文法知識を押さえながら、現代語訳をしていく。 3 2首の和歌の解釈については、それぞれの和歌が伝えたいことを理解する。	「知識・技能」 <u>[記述の分析]</u> ノート、定期試験等 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解できているかをノートや定期試験等で分析する。
第2時	「筒井筒」第2段落を読み、和歌を中心に内容を理解する。	1 第2段落を音読後、内容について近くの人と話し合う。 2 重要語句や文法知識を押さえながら、現代語訳をしていく。 3 当時の結婚のあり方について学ぶ。 4 「風吹けば」の歌を解釈し、この歌と女の態度が男の気持ちを動かした理由を考える。	「知識・技能」 <u>[記述の分析]</u> ノートや定期試験等 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解できているかをノートや定期試験等で分析する。

<p>第3時</p>	<p>「筒井筒」第3段落を読み、和歌を中心に内容を理解する。</p>	<p>1 第3段落を音読後、内容について近くの人と話し合う。 2 重要語句や文法知識を押さえながら、現代語訳をしていく。 3 男が河内の女への気持ちが冷めた理由を理解し、現代との価値観の違いを理解する。 4 2首の和歌に詠みこまれた河内の女の心情について理解を深める。</p>	<p>「知識・技能」 [記述の分析]ノートや定期試験等 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解できているかをノートや定期試験等で分析する。</p>
<p>第4時 (本時)</p>	<p>読み比べ教材として、『大和物語』『沖つ白波』を読み、両作品の違いを捉える。</p>	<p>1 『大和物語』『沖つ白波』の本文を音読し、内容を理解する。 2 グループワークで、『伊勢物語』『筒井筒』との違いについて話し合い、発表する。 3 両作品の作風の違いについてまとめる。 4 『古今和歌集』にも同じ歌があり、左注に物語があることを理解する。</p>	<p>[主体的に学習に取り組む態度] 「記述の確認」振り返りシートにより、『伊勢物語』『大和物語』それぞれの表現の特色や表現の魅力を理解しているかを確認する。  [思考・判断・表現] 「記述の分析」ワークシート及び定期試験 ・「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めているかを分析する。</p>

7. 本時（全4時間中の第4時間目）

	学習活動	指導上の留意点	評価する内容・評価方法
導 入	1 読み比べ教材『大和物語』と第百四十九段「沖つ白波」について、簡単な紹介を受ける。 2 読み比べの活動をするこ とについて理解する。	1 作品紹介は、簡単にとどめ、「沖つ白波」は、『伊勢物語』第二十三段「筒井筒」と共通する話であることを知らせる。	
展 開	3 『大和物語』本文を音読する。	3 教科書本文に加え、小学館『新編日本古典文学全集』の本文に現代語訳がついたものを配布する。	
	4 『大和物語』と『伊勢物語』を比較する。 (1) どんな点が違うのかグループで話し合い、発表する。 (2) 両作品の描写の違い、作風について考える (3) (2)を踏まえて、「沖つ白波」と「筒井筒」では、読後にどのような違いがあるかを発表し合う。	4 (1) グループワークの形で整理する。  (2) (3) 個々人でワークシートに記入させる。	(2)両作品の描写の違い、作風の違いを把握し、説明できている。 【思考・判断・表現】 発表・ワークシート・定期考査  (3)両作品に対して作風の違いを理解している。 【思考・判断・表現】 観察・発表・ワークシート
ま と め	5 振り返りシートにまとめ、提出する。		『伊勢物語』と『大和物語』との読み比べに主体的に取り組んで、それぞれの表現の特色や魅力に気づいている。 【主体的に学習に取り組む態度】 観察・振り返りシート

2022年度 年間授業計画表

学年	教科	科目名	単位数	必修・選択	講座数	生徒数	担当者
1	国語	言語文化	2	必修	3	120	植田教子

**科目の目標**  
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語的・効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。  
(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。  
(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。  
(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

**評価の観点の趣旨**  
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。

**知識・技能**  
思考・判断・表現  
主観的に学習に取り組む態度

学期月	単元	単元の目標	教材	観点別評価標準	思考・判断・表現	主観的に学習に取り組む態度	評価の方法	評価の観点
1	4 古文入門	「説話」という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。 ・歴史的仮名遣いについて学習する。 ・用字について学習する。 ・小説との読み比べを行う。	唯我のそら 地獄家 松山良秀 地獄家	・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや古典特有の表現などについて理解を深めている。(2ウ)	「読むこと」において、文章に表れているもの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。(B(1)イ)	・積極的に説話を読み味わい、互いに話のおもしろさを伝え合おうとしている。 ・言葉の意味の変化について関心を持ち、自ら調べている。	期末テスト ワークシート 活動の観察、提出物	○知・思 ○思考 ○態度
	5 漢文入門	漢文を調読するための基礎知識として、返り句の種類と使い方を習得する。 ・置き字や返読文字、再読文字について学習する。	別紙 置き字 論語	・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや古典特有の表現などについて理解を深めている。(2ウ)	「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。(B(1)ア)	・積極的に説話を読み、叙述に基づいて人物造形のおもしろさを捉えようとしている。 ・これからの学習に見通しを持って、漢文調読の基礎知識を積極的に身に付けようとしている。	期末テスト・小テスト ワークシート 活動の観察、提出物	○知・思 ○思考 ○態度
	小説(一)	・小説という文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などを的確に捉える。 ・典拠である『今昔物語集』にある説話との読み比べをし、芥川の創作のねらいを考える。	羅生門	・文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解すること。(11エ) ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、五感を磨き、語彙を豊かにしている。(11ウ)	「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。(B(1)ア)	・登場人物の行動や心理を粘り強く読み解き、内容や展開を捉えようとしている。 ・典拠となった『今昔物語集』の説話と粘り強く読み比べ、作者の工夫をまよめようとしている。	期末テスト・小テスト ワークシート 活動の観察、提出物	○知・思 ○思考 ○態度
2	論語	・日本にも大きな影響を及ぼした『論語』について知り、孔子のもの見方や考え方を理解する。 ・文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。	・字「学而」「述 故新」「他 に」「巧言令色」 「怨」 「政」 「子貢問 政治」	・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。(11ア) ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや古典特有の表現などについて理解を深めている。(2ウ)	「読むこと」において、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえて、内容を解釈を深めている。(B(1)エ)	・『論語』が日本文化に与えた影響について理解し、孔子の理想などところを粘り強く説明しようとしている。 ・孔子について興味を持ち、図書館の資料などを用いて、そのエピソードを調べようとしている。	期末テスト ワークシート 活動の観察、提出物	○知・思 ○思考 ○態度
	7 物語話	・話の中で和歌が果たしている役割を捉え、物語話の特徴を読み解きを理解する。 ・物語話では感動の中心が歌にあることを理解し、内容や展開を的確に捉える。	・伊勢物語「東下り」「芥川」	・古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史・文化的背景などを理解を深めている。(2イ)	「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。(B(1)ア)	・物語話に積極的に親しみ、学習課題に沿って和歌の果たす意味を捉えようとしている。	中間考査・小テスト ワークシート 活動の観察、提出物	○知・思 ○思考 ○態度
	9 日記文学	・記録とは異なる日記文学を読んで、内容や展開を的確に捉える。 ・作品に表れている批評や論議の精神と世説の心情を捉え、内容を理解する。	土佐日記「門出」	・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや古典特有の表現などについて理解を深めている。(2ウ)	「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。(B(1)ア)	・学習の見通しを持って虚構性の高い日記を読み、執筆意図などについて積極的に批評したり討論したりしようとしている。	中間考査・小テスト ワークシート 活動の観察、提出物	○知・思 ○思考 ○態度
3	10 史伝(1)	・やや長めの史伝を読んで登場人物を捉え、主要な人物の考えや主張を読み取る。 ・史伝という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。	十八史略「臥薪嘗胆」	・我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化の関係について理解している。(2ア)	「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえて、内容を解釈を深めている。(B(1)エ)	・やや長めの史伝を粘り強く読み、展開を捉え登場人物を整理しようとしている。	期末考査・小テスト ワークシート 活動の観察、提出物	○知・思 ○思考 ○態度
	読み比べ	・話の中で和歌が果たしている役割を捉え、物語話の特徴を読み解きを理解する。 ・物語話では感動の中心が歌にあることを理解し、内容や展開を的確に捉える。	・伊勢物語「前并断」 「大和物語」 「沖つ白波」 「古今和歌集」	・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや古典特有の表現などについて理解している。(2ウ)	「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえて、内容を解釈を深めている。(B(1)エ)	・積極的に読み比べ、『伊勢物語』 「大和物語」それぞれの特色や魅力に気づいている。	期末考査・小テスト ワークシート 活動の観察、提出物	○知・思 ○思考 ○態度
	11 随筆を読む	・随筆を読んで、作者や当時の人々の生活感覚や興味の対象を知り、もの見方・考え方を理解する。	「徒然草」 「花は盛り」	・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや古典特有の表現などについて理解を深めている。(2ウ)	「読むこと」において、文章に表れているもの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。(B(1)イ)	・作品に表れているもの見方・考え方や美意識を積極的に理解し、学習課題に沿って自分の考えを伝え合おうとしている。	期末考査・小テスト ワークシート 活動の観察、提出物	○知・思 ○思考 ○態度
3	12 軍記物語	・合戦を主眼とした文学作品を読み、争いを背景として生まれた思想や人間のあり用を知る。 ・軍記物語という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。	平家物語「不審の最期」	・和漢混交文など歴史的な文体的変化について理解を深めている。(2イ) ・時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解する。(2エ)	「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。(B(1)ア)	・作品に表れている無常観を粘り強く読み取り、自分の考えを広げたり深めようとしている。 ・文体的歴史的背景を踏まえて本文を読み、学習の見通しを持って表現や描写・文体の特色を評価しようとしている。	期末考査・小テスト ワークシート 活動の観察、提出物	○知・思 ○思考 ○態度
	1 小説(2)	・三つ的小動物の死と関連して心境が語られる構成を読み取り、作中に示された死生観について考える。 ・作品に表れているもの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈する。	志賀直哉「城の囀りに」	・常用漢字の読み、主眼や文章の中で使えるようになる。(11イ) ・我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と高揚について理解を深めている。(2カ)	「読むこと」において、自身に表れているもの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。(B(1)イ)	・作品に表れている死生観を捉え、内容を解釈しようとしている。	期末考査 ワークシート 活動の観察、提出物	○知・思 ○思考 ○態度
	2 史伝(2)	・史伝の舞台となる時代背景を知るとともに、作中に描かれた人物の考えや人物像を読み取る。 ・史伝という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。	十八史略「三国志」	・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、五感を磨き語彙を豊かにしている。(11ウ) ・我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化の関係について理解している。(2ア)	「読むこと」において、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえて、内容を解釈を深めている。(B(1)エ)	・積極的に史伝を読み、登場人物の考え方や人物像を説明しようとしている。	期末考査 ワークシート 活動の観察、提出物	○知・思 ○思考 ○態度
3 韻文	・表現や技法(押韻や句)に留意して漢詩を鑑賞し、人々が自然や人事に向けた思いを読み取る。 ・和歌という文章の種類を踏まえて、情景や心情など、内容や展開を的確に捉える。	唐詩 古今和歌集 古今和歌集	・表現の技法とその効果について理解している。(11イ) ・我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解する。(11イ)	「読むこと」において、作品に表れているもの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。(B(1)イ)	・漢詩のきまりを鑑賞して理解し、学習の見通しをもって漢詩を鑑賞しようとしている。 ・粘り強く漢詩を読み比べ、読み取った情景や心情を説明しようとしている。	期末考査 ワークシート 活動の観察、提出物	○知・思 ○思考 ○態度	